

東日本大震災と福島第一原発事故からまる7年 今も7万3千人が避難生活

また3月11日がやって来ました。大震災と原発事故からまる7年です。この7年間は被災者や遺族の人達にとっては、長かったのか・短かったのか。私には分かりません。

人口減少・高齢化・過疎化は、全国の地方で起きている普遍的な問題

岩手県・宮城県の三陸沿岸や福島県の浜通りでは、人口減少・高齢化・過疎化が進んでいました。大震災や原発事故は、このような動きを、10年・20年早めたのかもしれない。大都市を除けば、人口減少・高齢化・過疎化は、これから全国のどこの地方でも起こる普遍的な問題なのです。

日本は世界有数の災害大国 日本の国土で安全な原発はあるのか！

この7年間でも、日本の各地で、地震・台風・水害・土砂災害・火山の噴火等の自然災害が起きました。仮設住宅に入った人の多くは「まさか自分が仮設住宅に入るとは、夢にも思わなかった」と言います。つまり、日本は世界有数の災害大国なのです。

南海トラフ地震（マグニチュード8～9）は、今後30年間で70～80%の確率で起こると予想されています。近くにある浜岡原発（静岡県）と伊方原発（愛媛県）の安全は、本当に大丈夫なのか。災害の防止をないがしろにして、日本中が東京五輪や大阪万博・カジノに明け暮れていていいのだろうか？

現在の復興は、本当に被災地や被災者のためになっているのだろうか！

大槌町・陸前高田市・南三陸町等の被害が大きかった地域では、復興事業として、土地区画整理事業が行われました。土地をかき上げをして、換地をして、新しい街をつくる事業です。しかし、土地の約5割が、土地所有者が利用する予定がありません。つまり、空地のままなのです。住民の多くが帰還しない、これが7年経った被災地の実情なのです。働く場所が無い・病院が無い・商店が無い、地域の交通が無い。このような状況で7年経って、避難先で生活の再建をしようとしている避難者も多いです。

避難者の生業（なりわい）ができて、地域のコミュニティが復活して、神社や寺・伝統等が復興するためには、10年20年はかかります。被災者の心の復興は、なおさらまだまだです。

東日本大震災と福島第一原発事故による犠牲者と避難者数

	死者	行方不明者	震災関連死	避難者
岩手県	4,674人	1,116人	464人	8,539人
宮城県	9,540人	1,223人	926人	9,133人
福島県	1,614人	196人	2,202人	16,471人
全国	15,895人	2,539人	3,647人	73,349人
	3月1日現在		昨年9月30日現在	2月13日現在

【未だ嵩上げ工事や土地区画整理事業が進む内湾地区（気仙沼市）】



【復興のフロントランナー 活気ある駅前の商業施設—しかし地元の商店は少ない (女川町)】

